

水稻品種「ひとめぼれ」におけるいもち病防除と 葉いもち・穂いもち発生量の関係および収量に対する影響

【1 成果の概要】

- (1) 「ひとめぼれ」では、出穂期の上位葉における病斑数が多いほど穂いもち被害度が高くなりますが、穂いもち防除の省略によりその傾向がより強くなり、葉いもちの発生がわずかでも穂いもちが多発する可能性があります (図1)。
- (2) 穂いもち防除を省略した場合、
出穂期の上位3葉の病斑数 0.08個/株 → 5%減収
0.14個/株 → 10%減収 となります (図2)。
- (3) 出穂期の上位3葉における葉いもちの発生が多い場合は、通常の穂いもち防除を実施しても被害を抑えきれない場合がありますので、葉いもち防除を徹底するとともに、葉いもちの発生が目立つ場合は追加防除の実施を検討する必要があります。

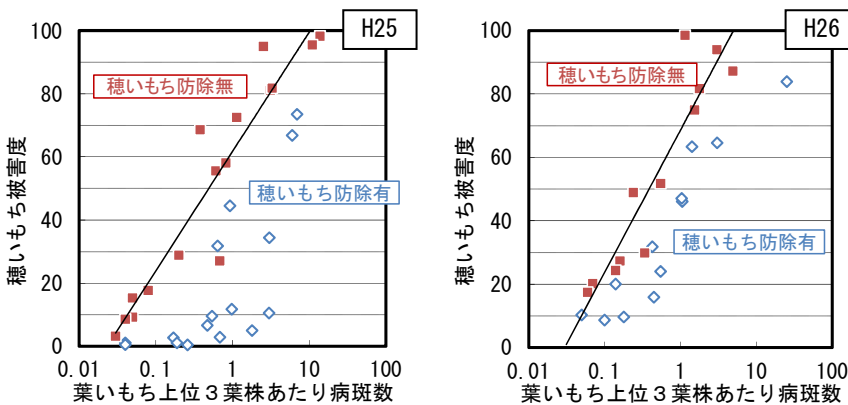


図1 出穂期の上位3葉の株当たり病斑数と収穫期の穂いもち被害度の関係

※葉いもち上位3葉株あたり病斑数は対数表示

※葉いもちおよび穂いもちの発生量は、各試験区内の5カ所で計100株(一部50株)調査した

※穂いもち被害度=穂首いもち発病率+(1/3以上枝梗いもち発病率×0.66)

+ (1/3未満枝梗いもち発病率×0.26)

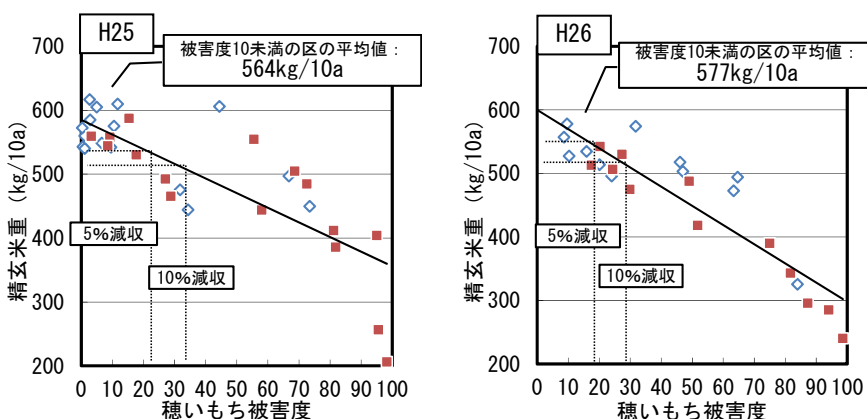


図2 穂いもち被害度と収量(精玄米重)の関係

※精玄米重は1.9mm目篩により調製したもの

図2より:

減収率と穂いもち被害度の関係

5%減収 → H25 被害度 21 のとき
H26 被害度 17 のとき
10%減収 → H25 被害度 33 のとき
H26 被害度 27 のとき

図1より:

穂いもち無防除の場合の被害度と葉いもち株あたり病斑数の関係

穂いもち被害度 20
→ H25 0.079個/株のとき
H26 0.083個/株のとき
穂いもち被害度 30
→ H25 0.139個/株のとき
H26 0.144個/株のとき

【2 留意事項】

本成果は平成25年および26年の試験結果に基づくものであり、気象条件等によってはいもち病の発生様相が異なる場合があります。

担当研究室 環境部 病理昆虫研究室

〒024-0003 岩手県北上市成田20-1 TEL. 0197-68-4424 FAX. 0197-71-1085